

取組事例：集約化②

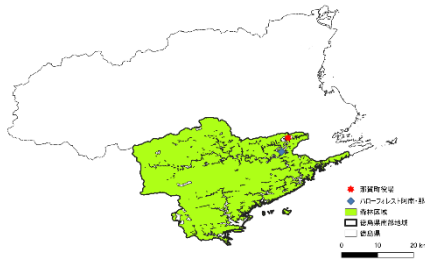
④ 相談窓口と森林バンクによる集約化と森林整備の推進

徳島県南部地域

- ✓ 森林経営管理制度と山林の売買・寄附の相談窓口を設置し、売買・寄附情報は「森林バンク」で一元管理し、事業者とのマッチングを推進

■地域の基本データ

総面積	122,001 ha
森林面積	113,321 ha
民有林面積	107,564 ha
人工林面積	78,698ha(民有林)
主要樹種	スギ、広葉樹



■当該取組の参画者

徳島県南部地域林業成長産業化協議会 (公社)徳島森林づくり推進機構 那賀町

■課題と目的

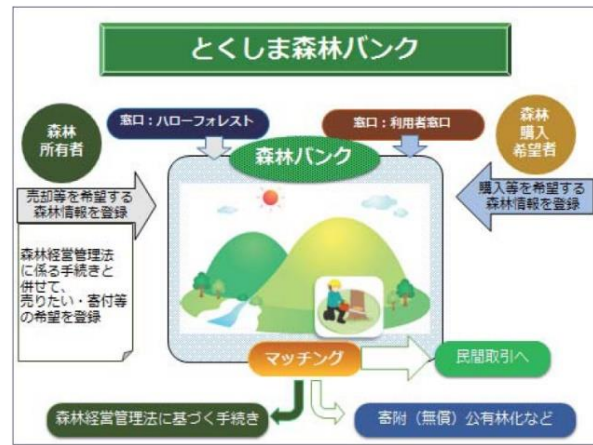
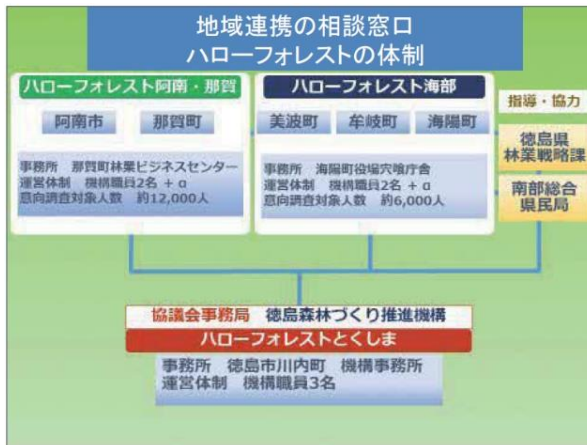
- ・徳島県南部地域は徳島県の南部に位置し、西は高知県、南東部は太平洋に面しており、土地面積は県全体の3分の1を占め、那賀町、海陽町、牟岐町、美波町の4町で構成されている。
- ・当地域は、林野率が93%と県内でも特に高く、民有林率は95%となっている。
- ・森林所有者の高齢化や不在村化が進行し、管理されない森林や所有者不明の森林も増加してきている。
- ・それらの森林については、平成31年4月から運用が開始された森林経営管理制度を活用した管理等が必要だが、同制度に対する森林所有者や関係者の認識・理解が進んでおらず、また、市町村担当者に林業専門職が不在であることも課題となっていた。
- ・そこで本取組では、森林経営管理制度の推進と、意向調査で明らかになった山林寄附・売買の希望に対応する体制を構築することとした。

■取組の概要

- ・徳島県南部地域の市町と県、徳島森林づくり推進機構が連携して、成長産業化協議会を母体とした、徳島南部地域森林管理システム推進協議会(事務局:徳島森林づくり推進機構)を平成30年度に設立した。
- ・同協議会では、森林所有者の問い合わせなどに対応する相談窓口として「ハローフォレスト」を徳島県南部で2カ所(那賀町、海部町)、取りまとめを行う「ハローフォレストとくしま」を徳島市に1カ所設置した。森林経営管理制度に関する問い合わせのほか、制度の周知、活用を促進するためにHP開設やパンフレット作成、説明会の開催などを実施した。
- ・また、森林所有者に対して制度利用の意向調査などを実施して、森林所有者の問合せ窓口として対応している。
- ・意向調査を実施した結果、森林経営管理制度の活用ではなく、森林の売却を希望する意見も多くあった。
- ・そのため、ハローフォレストが森林を売りたい・寄附したい場合などの問合せ対応も行うとともに、森林の売買・寄附情報を集約するため、徳島森林づくり推進機構が中心となって「とくしま森林バンク」を構築した。

- ・「とくしま森林バンク」は令和3年度に一般社団法人化、令和4年度に公益法人化し、一元管理した売買情報等を元に、森林の入手を希望する事業者等とのマッチングを行うと

ともに、自らも主体となって手入れの遅れている森林を取得・施業し、当該森林を「J-クレジット」化して販売につなげている。



図表 4-1 (左) ハローフォレストの体制、(右) とくしま森林バンクのスキーム (資料：徳島県南部地域)

取組の成果・効果

- ・説明会を複数回実施することにより、延べ千名ほどの森林所有者が参加。ハローフォレストには、令和2年度までに100件以上の問い合わせがあるなど、森林経営管理制度や「とくしま森林バンク」の取組に関する森林所有者の理解の醸成が進んだ。
- ・令和元年度から令和4年度にかけて意向調査を実施（実施主体：ハローフォレスト）。令和元年から令和3年度までの3年間・4町合計で6,909件、52,587haの回答情報を収集している。
- ・森林経営管理制度の活用や、森林の売却や寄付など、森林所有者の意向に合った森林管理方法の提案や、売買のマッチングができる体制が整備された。当地域における森林バンクへの売却・寄付の情報のとりまとめが進んでおり、令和4年7月時点で約350件、約2,500haの申込情報の把握を進めている。

- ・「J-クレジット」に関する取組については、「とくしま森林バンク」が令和4年度には公益社団法人化することで、自らが主体となって取り組む体制を構築できた。



図表 4-2 説明会の様子 (資料：徳島県南部地域)

■成功要因／横展開のポイントや苦労した点

- ・市町村と県、林業関係団体が連携し、森林所有者の対応窓口を「ハローフォレスト」に一本化したことで、森林所有者とのコミュニケーションが円滑になったことが成功要因と考えられる。
- ・森林所有者の中には、森林の売却や寄付を希望する人も多いことに着目し、「とくしま森林バンク」を設置し、森林の売買も選択肢として提供できたことも成功要因である。

■取組の展開

- ・引き続き、公益社団法人とくしま森林バンクにおいて、管理の行き届かない森林を集約化し整備するため、森林所有の合理化を図り、健全な森林に育成していく。

■事業実施にかかった主な費用（H30-R4見込）

協議会の運営	3,410千円（うち国費3,410千円）
相談窓口・運営	5,190千円（うち国費5,190千円）
森林バンクシステムの構築	7,350千円（うち国費7,350千円）